解　説

読み取る **1** **3** 筆者は、しゃべるときの最高の速さの目安として、野球の中継放送のアナウンス原稿を取り上げ、一分間に九百字という数字を挙げている。しかし、これはあくまで職業的に十分訓練と経験を積んだ者の、限定された状況の下でのしゃべりだから聞き取ることができるのだということに注意する。

P.5

❶ 読む（言語感覚）　話し方はどうかな

1

1 「皆さんは、……」（18・1）で始まる最初の段落の要点として適切なものを次から一つ選び、○を付けなさい。

㋐ 話は、速さによって聞き取りにくくも聞き取りやすくもなる。
イ 話が伝わらないのは、声が小さすぎることが主要な原因である。
ウ 発音に注意して話をしないと、大汗をかいて終わることになる。
エ 友達から言葉を挟まれると、話がしどろもどろになりやすい。

2 「こういう速さの決め方」（19・12）とは、どのような決め方を指していますか。次の□に字数の合った言葉を書きなさい。

録音した話を［漢字仮名交じり文］で原稿用紙に書き、［一分間に何字］と表す決め方。

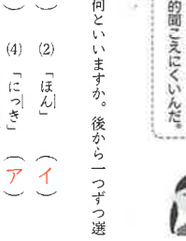
3 「日本人が最高の速さで日本語をしゃべったら何字くらいになるでしょうか。」（19・13）について、次の問いに答えなさい。

(1) 筆者は、どんなときの速さを「最高の速さ」の例に挙げていますか。文章中から抜き出して書きなさい。

スポーツ・アナウンサーが実況の山場でしゃべるとき（の速さ）

(2) 筆者は、「最高の速さ」とは、一分間に何字が限度だとしていますか。

一分間に（九百）字



4	3	2	1	20・12	20・5	21・2	21・7	21・14	22・2
山場	意 最も盛り上がった場面。例 物語は山場を迎えた。	類 状況　様子	意 物事の判断のよりどころ。例 評価の基準を定める。	基準	意 勢いが激しい様子。例 猛烈な吹雪に襲われる。	猛烈	類 とても　たいへん	非常に	意 文章や話などの組み立て。例 起承転結を押さえて書く。

22・2	22・3	22・4	22・1	22・7	
淡々	意 あっさりしている様子。例 淡々と仕事をこなす。	対 形式	内容	機会	類 折　チャンス

5　適切な言葉を選ぼう　波のない夜の海は（ア）の闇だ。　ア 漆黒　イ 純白

P.4

1 言葉を楽しむ 読む（言語感覚）

話し方はどうかな

□ 話し方について知り、身に出して文章を読む。

教科書 ➡ 18〜22 ページ

準備する ここでの話題について押さえよう。

1 筆者はどんな仕事をしていた人ですか。教科書22ページの筆者紹介の欄を参考にして、この文章の内容に関係の深い職業名を一つ書きなさい。

（アナウンサー）

2 この文章には二つのアナウンス原稿が出てきます。それぞれ何に関する原稿ですか。文章中から抜き出して書きなさい。

（野球（の中継放送））（気象情報）

3 この文章の、話題の中心を次から一つ選び、○を付けなさい。

ア 話すときの態度。
イ 話すときの声の大きさ。
ウ 話すときの視線の向き。
㋓ 話すときの速さ。

読み取る 内容を正確に読み取ろう。

1 話の速さについて考える

漢字 次の漢字をなぞり、漢字の右側に読み仮名を書こう。（★ 新出漢字 ● 新出音訓「付表」の語）

1 皆さん（みな）　25 普通（つう）　35 大汗（おおあせ）　38 遅い（おそい）
19・10 満塁（まんるい）　16 原稿（げんこう）　39 中継（ちゅうけい）
07 乾燥（かんそう）　30 捕る（とる）　27 実況（じっきょう）　32 挟む（はさむ）
20 工夫（くふう）　19・10 仮名（かな）　30 拔ける（ぬける）　36 跳ね返る（はねかえる）
21・8 取り扱い（とりあつかい）　40 滑り込む（すべりこむ）　45 状況の下（じょうきょうのもと）　29・11 猛烈（もうれつ）
09 交互（こうご）　21・9 淡々（たんたん）

語句 次の語句について、辞書を使って調べよう。（意 意味を書こう　文 短文を作ろう　類 類義語を挙げよう　対 対義語を挙げよう）

3	2	1		
19・10	19・8	18・5		
普通	どろも	言葉を挟む		
対 特別	意 話の内容がひどく乱れて取りとめのない様子。例 しどろもどろに答える。	文 例 父の話に言葉を挟む。		

◀◀◀ 様子を表す言葉を学ぼう。答えは教科書 299〜302 ページで確かめよう。

4

解　説

考えを深める **2** 話す速さや話の表情などについて、これまでの自分自身はどうだったかを振り返ったうえで、まとめてみよう。

音声の働きや仕組み

3 共通語と方言では、同じ言葉でもアクセントが違うことがあるが、ここでは共通語の場合を考えてみよう。**4** 文末の音声を上げることによって、勧誘や疑問の意味を表すことができる。

❶ 日本語探検 ── 1　音声の働きや仕組み

1

日本語探検 ── 1 音声の働きや仕組み

教科書 ➡ 23 ページ

漢字 次の漢字をなぞり、漢字の右側に読み仮名を書こう。（★ 新出漢字 ● 新出音訓）

23・17 離す（はなす）　末尾（まつび）　母音（ぼいん）

1 次の説明のうち、「母音」に関するものには**イ**を書きなさい。

(1) ローマ字で表したときに［k・s・g・p］などに当たる音声。
(2) ローマ字で表したときに［a・i・u・e・o］に当たる音声。

(1)（イ）　(2)（ア）

母音は、空気の流れをあまり妨げないから遠くまで聞こえるよ。一方、子音は、舌や唇で空気の通り道を狭めたり閉じたりするから、比較的聞こえにくいんだ。

2 次の傍線部の音節はそれぞれ何といいますか。後から一つずつ選び、記号を書きなさい。

(1) 「とし」　(2) 「ほん」　(3) 「ぼうし」「こおり」　(4) 「にっき」

（エ）（イ）（ウ）（ア）

ア 促音　イ 撥音　ウ 長音　エ 拗音

3 「きる」という言葉は、共通語では、アクセントの違いで別の語として区別されます。次の(1)、(2)のアクセントでは、それぞれどんな言葉になりますか。漢字仮名交じりで書きなさい。

(1) 「る」を下げて発音する　（切る）
(2) 「る」を上げて発音する　（着る）

4 次の文は、文末の音声を上げて言うか下げて言うかで、意味が変わります。それぞれどのような意味になるかを書きなさい。

「図書館に、行かない。」

(1) 文末を上げる場合
（例 図書館に行こうと相手を誘っている。）
(2) 文末を下げる場合
（例 自分は図書館に行かないと否定している。）

文末を上げて言ったり下げて言ったりして、実際に発言してみよう。

7　適切な言葉を選ぼう　スズメが（イ）鳴いている。　ア トントン　イ チュンチュン

P.6

考えを深める **読み取った内容を整理しよう。**

1 次の表を完成させて、話し方について分かったことを整理しましょう。

小見出し	内容
(1) 日本語を話すときの最高の速さ	●スポーツ・アナウンサーの実況の［山場］の速さ。 ●最も速くても一分間に［九百］字が限度。 ●職業的な訓練と［経験］が必要。
(2) 例 最も聞きやすい速さと話の表情	●いちばん聞きやすいのは、一分間に［三百］字。 ●話には、［起承転結］、緩急、強弱がある。 ●適切な速さで話せる［土台］の上に、話の［表］［情］を豊かにしていけば、［魅力的］な話し方ができるようになる。

2 あなたは、今後いろいろな場で発言するときに、特にどんなことに気をつけて話したいと思いますか。簡潔にまとめましょう。

例 早口になることがあるので、相手にとって聞きやすい速さを意識して話したい。

適切な言葉を選ぼう　「（ア）の庭」と謙遜する。　ア 猫の額ほど　イ 流線形　6